令和５年度　東京都立国立高等学校　学校経営計画

校長　　宮　田　　明　子

Ⅰ　目指す学校

<table>
<tr><td>校　　訓</td><td>清く　正しく　朗らかに</td></tr>
<tr><td>教　育　目　標</td><td>全人教育を目指し、生徒が人間性豊かに成長することを願い、将来有為な社会形成者になることを希求して、次の目標達成に向けた教育を推進する。
１ 自主性を持ち、責任を重んずる人になる。
２ 明朗な気風を養い、個性と創造力の豊かな人になる。
３ 社会に貢献し、困難・辛苦に耐え得る人になる。</td></tr>
<tr><td>スクールミッション</td><td>Critical Thinking（物事の本質を問い続け、粘り強く考える思考法）
Creative Thinking（自らもつ知識同士や他者とのつながりによる新たな発想）
Collaboration（互いに補完し、発展させるための協働）
を柱として、多用な見方・考え方を学ぶことで、課題発見・解決力、創造性を持つ人材を育成します。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">スクールポリシー</td><td>（1）グラデュエーション・ポリシー</td></tr>
<tr><td>自ら問いを立て、その解決に取り組む課題発見・課題解決力と、創造性をもった生徒
――現状に甘んじることなく、自分や社会がより良くなるための
前向きな変化を模索する『チェンジ・メイカー』――
１　自分の頭で考え、自分の言葉で表現する力を充実・向上させ、前向きな批判精神を育成する。
２　大学入学後に、知の体系を専門的に学び、自分の能力をさらに発展させることができる基礎的な学力と教養、素養を身に付けさせる。
３　他者と協働しながら粘り強く課題解決に取り組む姿勢を育成する。
４　他者との協働において、相手の立場を尊重し、人として何が大切なことかを主体的に選択できる判断力を身に付けさせる。</td></tr>
<tr><td>（2）カリキュラム・ポリシー</td></tr>
<tr><td>学習活動と特別活動（部活動・学校行事）のいずれにおいても、けじめをつけてすべてをやり抜く事を目指す。「グラデュエーション・ポリシー」を踏まえ、具体的に育てたい資質・能力を「知識・技能（Knowledge）」、「思考・判断・表現（Ability）」、「主体的に学習に取り組む態度（Motivation）」で分けて言語化し、それぞれを基本要素の「３つのＣ（C1 C2 C3）」に分類した。
（C1）Critical Thinking　既存の情報をうのみにせず、真偽を疑い、多面的に捉え、「なぜ？」「何のため？」という物事の本質を問い続けながら、粘り強く考えること。
（C2）Creative Thinking 自らの持つ知識同士のつながりや、他者の持っている知識とのつながりによって新たな発想をすること。
（C3）Collaboration 個人それぞれが、自己の強み弱みを客観的に分析した上で、弱みについては互いに補完し、強みについては互いに掛け合わせてさらに発展させるために協働すること。
<table>
<tr><td></td><td></td><td>Ｃ１</td><td>Ｃ２</td><td>Ｃ３</td></tr>
<tr><td>「知識・技能」
(Knowledge)</td><td>▷教科で身に付けさせる力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="7">「思考・判断・表現」
(Ability)</td><td>▷自分の頭で考える力</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>▷自分の言葉で伝える力</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>▷他者と伝え合うことのできる力</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>▷自分を客観視できる力</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>▷新たな価値観を作り出すことのできる力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>▷蓄積した知識を用いて考える力</td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>▷状況に応じて何が重要なのかを主体的に判断する力</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
</table></td></tr>
</table>

		C１	C２	C３
「主体的に学習に取り組む態度」(Motivation)	▷信念をもって積極的に行動することのできる態度		○	○
	▷知の習得・活用・探究に努める態度		○	
	▷他者と関わろうとする態度			○
	▷礼を正す態度			○
	▷社会の変化に主体的に向き合う態度	○		
	▷新たな世界を逞しく切り拓こうとする態度		○	
	▷他者と協働しながら自らを高めていく態度			○
	▷粘り強く考える態度	○	○	○
	▷高い志によって課題の解決に取り組む態度	○	○	
	▷他者のために行動する態度			○

主として教科での活動を中心に据えた学習活動では、「知識・技能」の項目を各教科・科目で設定する。そこに７つの「思考・判断・表現」」と、１０の「主体的に学習に取り組む態度」の中から、各教科・科目が学習活動で主眼に置く項目を選択する。

特別活動では、上記の７つの「思考・判断・表現」と、１０の「主体的に学習に取り組む態度」の中から、顧問や指導者等が特別活動で主眼に置く項目を選択する。

（３）アドミッション・ポリシー

「自ら問いを立て、その解決に取り組む課題発見・課題解決力と、創造性を持った生徒」の基本要素「３つの C」に基づいた、入学者の受け入れに関する方針。本校では、以下のような生徒の入学を求める。

Critical Thinking（C1）

教科学習をはじめ、部活動や生徒会活動においても、既存の情報をうのみにせず、真意を疑い、物事の本質を問い続けながら粘り強く考えようとする生徒

Creative Thinking（C2）

自らの持つ知識同士のつながりや、他者の持っている知識とのつながりによって、多方面において新たな発想をしようとする生徒

Collaboration（C3）

個人それぞれが他者と協働し、自己の弱みについては補完し、強みについてはさらに発展させようとする生徒

Ⅱ　中期的目標と方策

本校は創立以来、文武両道の校是のもと、進学実績、部活動、学校行事などに優れた成果を上げ、世界に貢献できる有為な人材を育成してきた。さらに近年は進学指導重点校に指定され、より一層の進学実績と都立高校の牽引役としての役割を期待されてきた。しかしながら、現在は都立中高一貫校の台頭や、学校の成り立ちから長年良い意味で競い合ってきた立川高校における創造理数科の設置など周辺環境の変化により、学校としての今後の方向性を従来にも増して明確にしていくことが求められている。そこで本校は、これまでの伝統と人的財産を土台に、より水準の高い教育活動を創造し、探究活動に組織的に取り組む体制を構築して、２１世紀を担う世界的視野を持ったリーダーの育成を目指していく。同時に、進学指導重点校として生徒の高い進路希望を実現するため、難関国公立大学現役合格者数５５人以上（内東大合格者数１２人以上）、国公立大学現役合格者数１５０人以上を目標として教育活動を展開する。生徒の人間性豊かな成長を実現するため、部活動や学校行事を含め、何事にも全力で取り組む意欲と向上心に溢れる生徒を育てるべく全教職員が一丸となって取り組むことで、高いレベルの文武両道を実現する。

１　学習活動

生徒が、課題発見・解決能力や言語的表現能力など多様な能力を練磨し、教養と知性溢れる人生の基礎を築くとともに、思考力・判断力・表現力等の能力や、主体的に学習に取り組む態度を育成し、深い学びが実現できるよう、教員の教科指導力の向上と教育活動全体の質を高める。

２　進路指導

進学指導重点校としての実績を踏まえ、キャリア教育の視点にたった３年間の進路指導計画に沿って、系統的組織的な進路指導を行い、生徒の高い進路希望を実現することにより進路実績を一層向上させる。

３　生活指導

規範意識を高める指導を丁寧に行い、体罰の根絶に向けた取組を推進するとともに、いじめ問題への対応については日常的に未然防止に取り組み、生命尊重の意識を醸成する指導を行うことで、いじめや生命に関わる事故のない、生徒が安心して学校生活に取り組める環境を保証する。

４　国際理解教育

自己のアイデンティティを確立し大切にすると同時に、多様性を重んじ、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できるグローバル人材の育成に努める。

５　特別活動・部活動

生徒が文化的・体育的活動に打ち込める環境を整備し、その自主的な取組みを最大限に支援することで、自主性や責任感、社会に貢献する心を育てるとともに、校内での自らの存在価値を認識し自己肯定感を高め、学習に取り組む意欲を喚起する。その活動の成果を広く都民や地域に積極的に公開する。

また、災害等に備え、危機管理体制を構築し生徒の安全を確保するとともに、地域の防災拠点としての役割を果たす。

６　美化・健康づくり

生徒が生涯にわたり心身ともに健康的な生活を営めるよう、生徒の健康保持増進や体力づくりの推進に努めるとともに、相談活動の充実を図る。

７　募集・広報活動

教育内容や教育活動の成果を、学校説明会やホームページ等のあらゆる機会をとらえて迅速且つ計画的に広く都民に発信することにより広報活動の充実を図り、入学者選抜一次（応募）倍率１．８倍以上を数値目標として募集対策に取り組む。

８　学校運営・組織体制

本校の使命を達成できる機能的で活力のある学校組織を構築し、教職員が公務員としての自覚と使命感のもとに創造的な教育活動を展開する体制を目指す。経営企画室の経営参画を推進し、経営企画室職員と教員が連携して協力しながら学校全体で教育目標の達成に努める。

Ⅲ　今年度の取組目標と方策

１　教育活動の目標と方策

（1）　学習活動

進学指導重点校として、生徒個々の学力を最大限に伸ばし、入学時の生徒の進路希望を叶えることの出来る基礎学力と発展的応用力を身に付けさせられるよう、授業の改善に全教職員で取り組む。その方策として、以下に掲げる取組を実施する。

① 基本的学習習慣の定着

ア　生徒の進路意識調査を実施し学習時間を把握する。

イ　１・２学年で到達度テストを実施し、年度当初に学習習慣の重要さを認識させる。

ウ　課題・宿題・小テスト等を組織的・計画的に実施する。

エ　部活動のあり方のルール（特に定期考査前）を徹底し、家庭学習時間を確実に確保する。

② 基礎学力の定着

ア　高校入試・学力調査・模擬試験等の結果を分析し、指導計画の作成と改善を図る。

イ　習熟度別授業や少人数授業を実施し、授業外では個に応じた補習・補講・個別指導を実施する。

③ 発展的応用力の育成：知的好奇心を刺激し主体的で深い学びへと導く魅力ある授業や取組の実践

ア　１学年の段階から大学入試問題等に授業内で触れ、目標レベルを明確に示した授業を行う。

イ　教科・科目の特性を活かしながら、課題探究学習や討論、レポート作成等を採り入れるとともに、観点別評価を含む評価方法を工夫して生徒の学習意欲を喚起し、言語活動の充実にも取り組む。

ウ　生徒自ら主体的に学ぶことが出来るように、探究活動を全校で組織的に行う体制を築き、教員全員で全生徒の探究活動を支援する。

④ 教員個々の授業力と教科としての指導力の向上

ア　指導教諭による模範授業等を活用して本校の教育力を公開するとともに、校内研修の機会とする。

イ　全教員が年４回以上の相互授業見学を実施し、教科指導力の向上を図る。

ウ　教科の組織目標を設定し、実施状況を把握してＰＤＣＡサイクルを実践する。

エ　教科会を開催し、科目内の指導内容の統一、進度調整、生徒の学力向上分析と指導計画の再検討等、教科マネジメントを充実させる。

オ　教科として定期考査の統一化に努める。

カ　進学指導研究協議会の指名制による授業研究や校内外の研修機会に教員を積極的に参加させるとともに、生徒による授業評価に基づく授業改善に取り組む。

⑤ 都指定事業「英語教育研究推進校」、「理数研究校」の活用、及び都の教育施策の推進

ア　オンライン英会話や外部検定試験を活用し、「聞く」「話す」を含む英語４技能を伸ばす。

イ　「ＣＡＮ　ＤＯリスト」に基づく指導を実践し、「使える英語」力の向上を目指す。

ウ　理数分野の外部機関主催の講演会やコンクール等へ積極的な参加を促すとともに、校内での講演会等の実施も推進し、理数分野への生徒の興味関心の喚起と同分野の指導の充実を図る。

エ　ＩＣＴ機器と一人１台端末を活用した指導方法や教材を採り入れ、授業改善を図る。

オ　「オンライン・デー」を契機として、双方向のオンライン授業や動画配信等の取組を推進する。

（２）　進路指導

３年間を見通した系統的組織的な進路指導・キャリア教育を推進し、生徒入学時の高い進路希望を叶える。その方策として、以下に掲げる取組を実施する。

①　キャリアガイダンスを実施し、本校の進路指導方針の周知・徹底を図る。

②　進路講演会、進路懇談会、進路説明会、模擬授業・大学見学会等を実施し、大学の教育内容や特色、仕事の魅力や意義を理解させる。

③　年３回以上の生徒個人面談を実施し、必要に応じて保護者も交えた三者面談を実施する。

④　保護者対象の進路説明会や講演会を開催し、本校進路指導に対する保護者の理解と協力を得る。

⑤　進路相談体制を確立し、進路資料の充実と周知方法の工夫、及び進路ニュースの発行を適時行う。

⑥　ＰＴＡ・同窓会・後援会等の外部組織との連携により、外部人材による自主学習支援事業を実施、自習室チューターを配置して、自習室開放を充実させる。

⑦　夏季休業期間に、３日を１クールとした８期に及ぶ講習期間を設置。各教科で講習内容を検討し、全員態勢で補習に取り組む。

⑧　部活動や学校行事準備よりも講習を優先することが出来る校内体制の整備と生徒への指導を徹底し、講座受講生徒を増やすとともに大学受験に向けた学習機会を確保する。

⑨　長期休業期間以外の補習・講習を充実させ、生徒の進路実現に資する。

⑩　進路データの蓄積と、その共有を通して生徒情報と進路指導のノウハウの共通理解を図る。

⑪　「進路の手引き」を作成・発行し、生徒の進路意識を向上させるとともに、過去の進路データを生徒に提示して進路決定の参考にさせる。

⑫　各学年、年３回模擬テストを実施。第３学年においてはマーク模試と記述模試の結果に基づき生徒の正確な学力を把握し、校内模試分析会を実施して全教員で状況を把握し、指導の改善に活かす。

⑬　志望校検討会議・出願指導研究会を実施し、全教員の英知を結集して進路指導にあたる。

（３）　生活指導

生徒の基本的な生活習慣の確立を指導し、公共心を育成するとともに、生徒が安心して学校生活を送ることが出来る教育環境を整備する。その方策として、以下に掲げる取組を実施する。

①　集会、ＨＲを活用し、自己規律とともに公共心や規範意識を育てる。

②　部長会、集会等を通じて活動時間や下校時刻の厳守を指導し、下校時のマナーを守らせる。

③　公共ルールの遵守やＳＮＳルールに基づくインターネット・携帯電話等の適正な利用を指導する。

④　いじめ防止基本方針に則り、いじめは絶対許さない姿勢を生徒に示し毅然とした指導を行うとともに、年３回のいじめ実態把握アンケートを行い、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に資する。

⑤　不審者の侵入や盗難防止に向けた施錠の徹底とともに、生徒への注意喚起を常時行い、教職員の迅速な対応を可能にすべく情報共有に努める。

⑥　交通安全教室や薬物乱用防止教室等を実施し、保護者・家庭の協力も得ながら生徒の安全確保に努め、特に自転車乗車時のヘルメット着用を推進する。

⑦　生徒会の交流活動等、自主的な活動を充実させ、生徒の自主性を伸長させる。

⑧　ボランティア活動を教科「人間と社会」の体験活動として認定奨励し、社会貢献の意欲向上を図る。

（4）　国際理解教育

①　次世代リーダー育成道場への参加を奨励するとともに、高校卒業後に直接海外大学へ進学する選択肢も視野に入れ、外部機関による海外留学の機会等を積極的に紹介し、グローバルリーダーを育成する取組を推進する。

②　芸術鑑賞教室や留学生との交流会等の開催により、自己のアイデンティティの確立や日本文化理解を促進する取組を実施する。

（5）　特別活動・部活動

学校行事を通し国立高校生としての一体感と誇りを持たせ、学校生活を充実・発展させるとともに、部活動も含めた活動によって、生徒一人一人が学校に自らの居場所を持ち自己肯定感を高めることが出来るよう指導する。その方策として、以下の取組を実施する。

①　すべての学校行事の企画運営を生徒主体で行わせ、充実感、達成感、満足感を経験させると同時に、教職員は安全管理を徹底し、生徒に安心安全な活動環境を提供すべく細心の注意を払って指導する。

②-1　第九演奏会でのプロの芸術家との共演、文化祭クラス演劇の実施により、高い芸術性を身に付けさせる。

-2　関係者や関係機関との折衝等により、社会性や真のコミュニケーション力を身に付けさせる。

-3　著作権･商標権等、実社会でのルールや法体系を尊重する態度を身に付けさせる。

③　部活動への加入率１００％以上を達成し、積極的で活力のある充実した学校生活を送らせる。

④　部長会を活用して指導を徹底し、活動届の提出や下校時間の順守など責任ある活動を実現させる。

⑤　本校の部活動方針に基づき、各部活動で年間計画と目標、指導方針と内容・方法を明示し、ホームページで公表する。特に、平日、週休日において活動しない日を１日ずつ設けることを徹底し、兼部している生徒の活動日数に留意しながら指導し、メリハリのある活動と家庭学習時間の確保を図る。

⑥　部顧問や外部指導員に対して体罰根絶に向けた研修会を実施するとともに、体罰実態調査を実施して迅速に対応し、健全な部活動を推進する。

⑦　避難訓練や水道局と連携した訓練、関係機関と連携した防災講話の実施を通して、災害時の心構えや対応方法を身に付けさせ、被災者支援を主体的に行える資質・能力を養う。

（6）　美化・健康づくり

快適な教育環境維持のために校内美化に努めるとともに、スクールカウンセラー及び特別支援教育コーディネーターを中心として生徒支援委員会を活用し、生徒の健全育成に向けた指導を推進する。そのための方策として、以下の取組を実施する。

①　クラス、委員会、部活動等あらゆる生徒組織で校内美化に努め、学校行事等の前後に大掃除を行う。

②　都指定事業「体育健康教育推進校」を活用し、生徒の体力運動能力の向上と環境整備を図る。

③　各教科の授業や保健指導、その他の機会を通じて、食育の基本や心身の健康管理、生命尊重について生徒の意識を高め､各学年少なくとも年１回は､ＳＯＳの出し方に関する説明会や講義を実施する。

④　特別支援教育コーディネーターとスクールカウンセラーを活用し、心身の健康に不安を持つ生徒・保護者に対する相談支援体制を整える。

⑤　生徒理解や特別支援教育についての研修会を年複数回実施する。

（7）　募集・広報活動

①　スクールガイド及び学校紹介資料を早期に作成するとともに、次年度に向けてレイアウト、内容に関する全面刷新も視野に入れて検討する。

②　校内外を問わず学校説明会等の募集広報活動には全教員が必ず参加する体制をとる。

③　本校の教育活動を迅速にホームページにアップして効果的な募集広報活動を推進するため、ホームページ管理運営委員会をその担当として、組織的な掲載体制を構築する。

④　学校説明会３回、夏季休業中の学校見学会を１０回以上実施し、授業公開週間を２回設定するとともに、体験授業や部活体験入部等を実施して、本校の授業や部活動への中学生の理解促進を図る。

⑤　適切な良問の作成と、全業務での確認の徹底により、入学選抜業務をミスなく適正に遂行する。

⑥　長期休業中の国立市立中学校３校への生徒派遣による中学生への学習支援、国立市立第三小学校との合同防災訓練、一般対象の公開講座や施設開放等を実施するとともに、文化祭の一般公開等、可能な機会をとらえて地域との交流や広く都民への学校公開を実施していく。

（８）　学校運営・組織体制

①　学校評価アンケートを活用して課題を明らかにし、学校改革に向けた目標の共有化を図り、対応策の検討を分掌・学年で行う。

②　カリキュラムマネジメント委員会を中心に、中長期的視点で教育活動の方向性を検討する。

③　都指定の３事業については、特定教科の教員に限ることなく、学校としての事業推進母体を設け、組織的に取り組む体制を構築する。

④　ＩＣＴ機器の活用による校務の効率化やペーパーレス化を促し、業務縮減に関する教職員提案を積極的に取り上げ、マイ定時退庁日を教職員全員に設定させる等の取組をとおして、ライフ・ワーク・バランスを推進する。

⑤　経営企画室の経営参画を推進し、教育職員との良好なコミュニケーションに基づく連携・協力体制を構築する。

⑥　経営企画室との連携により、自律経営推進予算の計画的な執行、授業料徴収事務の適時・適切な遂行、就学支援金に関する適正かつ迅速な事務処理、中長期的見通しに立った施設・設備・備品の更新、図書館の蔵書充実と有効活用促進等を着実に実行する。

⑦　行政系・教育系に拘わらず全職員が公務員であることの自覚を持ち、服務事故防止研修への参加を悉皆として服務事故ゼロへの意識を醸成し、服務規律を徹底する。

２　重点目標と数値目標　　＊コロナの影響がほぼなかった平成 31 年度実績以降の経年変化を参考値として示す。

			31 年度実績	2年度実績	3年度実績	4年度実績	**5年度目　標**
1　広報活動を充実させ、募集対策に努める。	①夏季見学会来場者数		3069 名	682 名	896 名	1043 名	2000 名
	②学校説明会来場者数		1204 名	747 名	851 名	750 名	1000 名
	③入試説明会来場者数		616 名	252 名	282 名	352 名	600 名
	④推薦に基づく入学者選抜の応募倍率		3.79 倍	4.06 倍	3.73 倍	3.32 倍	3.5 倍
	⑤学力に基づく入学者選抜の応募倍率		1.66 倍	1.54 倍	1.68 倍	1.47 倍	1.8 倍
2　進学指導重点校としての進学実績を向上させる。	①東京大学現役合格者数		8 名	15 名	11 名	8 名	12 名
	②難関国公立大学現役合格者数（東京・東京工業・一橋・京都・国公立医学部医学科）		56 名	54 名	50 名	51 名	55 名
	③旧帝大現役合格者数（東京・京都を除く）		20 名	16 名	16 名	12 名	20 名
	④国公立大学（４年制）現役合格者数		141 名	151 名	135 名	149 名	150 名
	⑤難関私立大学現役合格者数（早稲田・慶応・上智・東京理科）		178 名	190 名	308 名	217 名	250 名
	⑥共通テスト 文系６教科７科目・理系５教科７科目受験者数		247 名	254 名	247 名	268 名	270 名
	⑦共通テスト文系６教科７科目得点上回り指数		1.30	1.30	1.30	1.31	1.30
	⑧共通テスト理系５教科７科目得点上回り指数		1.22	1.25	1.27	1.26	1.25
3　長期休業中の講習の充実	①長期休業中の講習講座数		165 講座	112 講座	138 講座	153 講座	170 講座
	②長期休業中の講習受講者数（延べ）		10155 人	7261 人	9615 人	9870 人	10000 人
4　学力向上のため、家庭学習時間を増加させる。	家庭学習時間	１年（春季）	1.44 時間	1.41 時間	1.41 時間	1.65 時間	2 時間
		２年（春季）	1.06 時間	1.60 時間	1.64 時間	1.78 時間	3 時間
		３年（春季）	2.48 時間	3.36 時間	2.53 時間	2.77 時間	4 時間
5　授業力改善に努め、生徒の授業満足度を向上させる。	学校評価項目「授業その他、本校の学習や教育のあり方全般に満足しています」の「A：そう思う」、「B：ややそう思う」の合計ポイント		81.2%	86.8%	87.1%	83.9%	90.0%
6　きめ細かい進路指導を実施し、進路指導満足度を向上させる。	学校評価項目「本校の進路指導は、進路実現の参考になり役立っていると思いますか。」のA：そう思う」、「B：ややそう思う」の合計ポイント		85.0%	88.3%	84.7%	80.7%	90.0%
7　特別活動・部活動を充実させ、生徒の学校満足度を向上させる。	学校評価項目「学校生活に充実感を感じていますか。」の「A：そう思う」、「B：ややそう思う」の合計ポイント		95.3%	96.4%	93.3%	91.2%	90.0%